

K121.74

7a

3

共益商社樂器店藏版

唱歌教科書
卷三

明治三十四年三月廿三日
文部省檢定済
第一號
校訂
共益商社發行

共益商社編

明治
29 4 6
丙交

緒言

弊社晨に善良なる唱歌教科書の編纂を希圖するや、先づ在京知名の音樂及文學の數大家に乞うて、該書編纂上の審査監督の事を依頼し、同時に廣く書を全国各地なる専門の諸先生に致して、諸地方に於ける該科普及上の狀況を始め、一般生徒の嗜好、歌曲難易の程度、旋法の種類、音域、歌曲の品題、分量、及び其排列の順序、教授の方法、其他編纂上要用なる條目に付て、委細の經驗注意等を寄せられん事を乞ひ、之を統計して、先づ編纂上大體の順序方法を定め、品題を選び、以て文學の大家に之が作歌を依頼し、再び之を各地の諸先生に配布して、其作曲を仰ぎ、集まれるもの數百曲の中に就て、更らに前記編纂監督の任に當られたる諸大家の、最も懇切丁寧なる審議取捨を經、茲

に着手以來幾多の歲月を閲して漸く此の編
は成りたり、されば本書は、其編纂上最も精密
の手續きを履みて生れたるものなる事を信
ずるものにして、こゝに其歴史を序すると同
時に、謹んで之に干られたる諸大家に向つて、
深く其好意を陳謝すと云爾。

明治三十五年四月

本書の特色及び使用上

の注意

程度 ○ 本書は、主として高等小學四學年間の課程
に適應せしむる目的を以て編みたるもの
なり。

(されば、本書の第三卷第四卷及び其他の
幾分は、また中學校及び高等女學校にも
適用するを得るものとす)

歌曲排 列順

○ 本書に於ける歌曲排列の順序は、斯道の諸
大家の最も精密なる審査を経て成れるも
のにして、系統正しく漸次簡より繁易より
難に進めるは勿論、遅き曲と早き曲と並に
勇ましきものと優しきものととの配合音域の
廣さ、題目並に歌想曲想の程度、季節の順序
及び各學期間に教授すべき歌曲の數等、凡
て最も適切なるべき様編まれたるものな
り、なほ曲を追うて、樂譜上新記號の現はる
る毎に、他の注意すべき諸項目と共に、必ず
之を演奏注意欄内に記述したり、されば特
別の事情ある場合に非れば、妄りに之を取

捨變換する事なく、たゞ全々所載の順序のまま、教授を進行すれば足るものとす、

但し祝日大祭日等の唱歌は本篇以外別に練習を要すべきものなれば之を行ふべき學期間の曲数は豫め其割合を以て排列しあるものと知るべし、なほ毎曲必ず充分生徒の熟練するを待って後、次の歌曲に移るべく、又常時既習曲を復習すべき事は論を俟たず、

高尚なる歌曲

○三四年生用の歌曲中には、在來の唱歌集の程度に比して頗る高尚なるもの無しとせず、されどもと本篇の歌曲は、悉皆これ本邦人の作にして、特に最も我兒童に適切なものをのみ、選み集めたるものなれば、彼の外人の作の我國情に叶はざるものゝ類を含まず、されば、一二年生より本教科書の順序により、正當の練習を積みたるものは、自然これら高尚なる歌曲をも見事に唱謠し得て、よく其趣味を會得し得るに至るべきを信ず、彼の常時徒らに兒童の容易く擬唱し得らるゝものをのみ多々注入するが

如きは、斯の科の教授上、善良の結果を擧ぐべき所以に非ず、

但し樂曲教授には、必ず樂譜を用ゐ、視覺上の智識をも應用せしめて、意識的練習を爲さしむべき事勿論なり、

〔附記〕本書編纂に當り、一般地方の専門家より聽くを得たる意見の大多數は、一二年生には畧譜、三四年生には本譜を用ゐしむるを以て、適當となせり、

調子

○本篇に於ける樂曲は、其自然の性質と、兒童の音域とを考へ、夫れ／＼適當の調子を以て記載しあるものなれば、妄りに移調變換する無からん事を望む、

但し曲により、一音内外の區域に移し得べきものは、演奏注意欄内に之を附記したり、

曲の想

○歌章に意義あるが如く、樂曲にも亦各其想あるものにして、勇ましきあり、優しきあり、廣大なるあり、輕快なるあり、其様一ならず、蓋しこの想こそ、唱歌上最も緊要なる條件にして、これ無ければ樂曲は全く死物と成

り了るべし、本書は毎曲首に必ずこの曲想を附記し、なほ曲によりては、演奏注意欄内に於て更らに之を説明したれば、先づこれに依りて曲趣を悟り、其の心を以て唱歌せば、幾庶くは漸次美的興味を會得するに至らん、なほ特に強弱記號及び發想記號を附記したる曲にありては、充分之に留意して、善く其曲の眞趣味を發輝せん事を望む、但し先づ調子及び拍子に熟達して後、強弱及び發想の練習に及ぶを、正當の順序とす、茲に本書に使用したる記號の一般を説明すべし、

<i>pp</i>	最も弱く
<i>p</i>	弱く
<i>mp</i>	稍弱く
<i>mf</i>	稍強く
<i>f</i>	強く
<i>ff</i>	最も強く
\sphericalangle	漸々強く
\sphericalangle	漸々弱く
<i>rit</i>	漸々遅く

速度

○ 楽曲の速度は、また曲想と大關係あるものなれば、其緩或は急に失する事無からん爲め、毎曲必ず拍節機の度數(レキニ)を附記

して、其速度を明示し、なほ一曲中に特別の緩急あるものは、演奏注意欄内に於て更らに之を述べたり、

拍節機

但し新に教授せんとする楽曲は、豫め拍節機に依りて、其拍子の速度を計り試み、よく其曲趣を會得し置くを善しとす、又若し教授に際して拍節機を使用する事あるも、曲首三四小節間にのみ之を用るれば足れり、一歌曲を通じて拍節機と共に唱歌するが如きは、機械的に流れて却て曲想を失ふの憂あるべし、
〔附言〕從來唱歌教授の通弊として、楽曲の速度多くは緩に失するの傾あるに如たり、

發聲法

○

聲音は唱歌上唯一の材料にして、發聲法の善悪は直ちに歌曲の美醜に關す、されば教師は常時兒童の發聲に注意し、能ふべきだけ善美なる聲音を使用せしむる事を怠るべからず、吸息法も亦唱歌上重要な一條件にして、こはまた呼吸機の發育に關する事大なり、本篇樂譜の上部に記したる、V記

號は即ち吸息の箇所を示したるものなり、
〔附言〕從來該科の教授には、暴聲を用ゐて
絶叫するをのみ活潑なる唱歌法と誤解
するの弊あるが如し、くれぐれもこの項
に注意あらん事を望む、

教授上の説明の要

○ 歌詞の意味に付ては、毎歌章の末に大要之
を解釋したるが、教師は先づ歌曲の題目、歌
意、曲想等により、善く他科との聯絡を考へ、
又既習歌曲との類似点及び差点等を視、適
宜に生徒と問答し、或は善く其意を説明し
て、充分兒童の興味を喚起し、且つ教授の聯
絡を計らん事を要す、

注意欄

○ 上記載以外の條項は各曲に注意欄を附
して、一々其内に之を記述したれば、每曲先
づ之を熟讀して、後教授に従はん事を望む、
第三卷及び第四卷には、卷末に女生徒専用
曲を添へたれば、適宜に之を學期間に配當
して教授すべし、

女生徒専用曲

唱歌教科書卷三 教師用

目次

第一學期

- 一 朝風……………三頁
- 二 振天府……………四頁
- 三 美しき天然……………六頁
- 四 水車……………八頁
- 五 日本軍艦……………一〇頁

第二學期

- 一 螢……………一二頁
- 二 琵琶湖……………一四頁
- 三 故郷の小川……………一六頁
- 四 豊年……………一八頁
- 五 秋景……………二二頁
- 六 コロンブス……………二四頁

第三學期

- 一 自然……………二六頁
- 二 日本刀……………三〇頁
- 三 和氣清麿……………三二頁
- 四 かちどき……………三四頁

女生徒専用

- 一 鏡……………三六頁
- 一 松の操……………三八頁
- 一 人形……………四〇頁
- 一 子守唄……………四二頁

朝風

露 吹く
 の びよ 朝風 (一)
 なびきてこぼる、
 あ、惜し
 か、冷しく吹く
 我、等、草、葉、の、露、を、

吹くよ朝風 (二)
 学び路いそぐ、
 一つはこぼれて、
 うつくし
 黄金の玉の、
 一つはかゝる、

空は清し、心地はよし、
 朝風そよ吹く、
 いざ急ぎて、
 来る日も来る日も、
 意うけん、
 路

学校に行く道すがら朝風に吹かれるよいな心地のよいことはな
 い。徐に一はらひづ、吹きはらうて草葉の露も落ちると落ち
 とであるといふことを詠んだのである。
 ○練習曲として前年に出でたる一月の遊び及び眞の勇士を復習す
 ○二語の歌詞を付けたる二分音符は四分音符二個に分ちて唱ふべきもの
 ○最後の二小節は落かに且つ稍拍子を緩めて唱ふべし

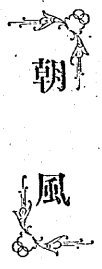
清朗 = (♩=112)(に調四分ノ四拍子)

1. フククヨハ
 2. ヨハハ
 3. ササキ
 4. カカ
 5. セシ
 6. スイ
 7. ツシ
 8. フク
 9. フク
 10. ヨシ

1. ナナサ
 2. ビカ
 3. イソ
 4. ソソ
 5. フ
 6. カク
 7. ワイ
 8. ナ
 9. ナ
 10. ナ

1. ノヤ
 2. シヤ
 3. フソ
 4. タセ
 5. マチ
 6. カチ
 7. ナガシ
 8. レハ
 9. ルチ
 10. サマク

1. コビ
 2. ガレ
 3. ルレ
 4. テ
 5. ヨ
 6. ヨ
 7. ヨ
 8. ノ
 9. ヨ
 10. ヨ



振天府

彈丸 銃砲 鋒劍
 日清 戦利 の 品々
 清戦 利の 品々
 給ひし 振天 府を
 給ひし 振天 府を

將校 士官 下士 歩卒
 戦病 死者 の 振天 府を
 戦病 死者 の 振天 府を

天皇陛下の大御しわざ

これは日清戦争に獲た分捕品を陳列なさるため又其の戦に戦死病死した將校士卒たちのおもかげをかかげなされるためおそれ多くも天皇陛下の大御はからひで御所のうちに御たてになつた振天府のことを詠み奉つたのである

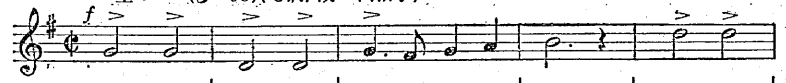
大内山 御所のこと
 面影 すがたを申し奉る

○第曲の第三段は其第一小節より第二小節の第一音符までを稍緩め(マ)を延長し、(マ)より拍子を改め(前の拍子の凡倍速く)廣大に唱ひ納むべし(但し第二章の歌は更に始めの拍子に反りて唱ふべきこと前出)月及び○第四段第二小節の初音は第二章の歌詞に於ては特に滑かに唱ふを要す(メソフ・ザンドー)に注意すべし(一學年の「時は黄金」参照)

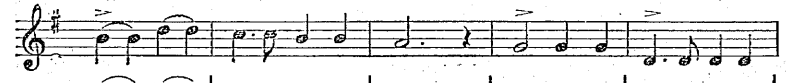
振天府



Maesoso 重々シク(♩=96)(と調四分ノ四拍子)



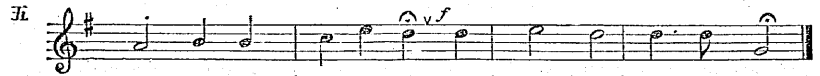
1- 1- | 5- 5- | 1. 7 1 2 | 3- 0 | 5- 5- |
 彈 九 銃 砲 ホ コ ツ ル ギ 日 清
 將 校 しか ん 下 士 ほ そ つ 戦 病



3 3 5 5 | 4 4 3 3 | 2- 0 | 1- 1 1 | 5. 5 5 5 |
 戦 利 ノ シ ナ シ ナ フ カ シ コ シ ヤ オ 天
 死者 の お も か げ を か か げ た ま ひ し
 rit Piu Lento オソク(♩=96)



2- 2. 3 | (1- 1 | 5- 5. 5 | 3- 1 |
 振 天 ン フ カ シ コ シ ヤ オ 天
 振 天 ン フ カ シ コ シ ヤ オ 天



2- 3 3 | 4 6 (5 5 | 6- 5 | 5. 5 (1- ||
 皇 ツ ヘ チ ヤイ マカ ノ ウお へほ ニミ タシ テわ りざ

美しき天然

げにうつくしき、あめつちのや
 春は花のながめ、おもしろ
 秋は綾織る、紅葉
 夏はすく、月、雪ぞりふる
 冬は玉ちる、雪ぞりふる

(一) げにうつくしき、あめつちのや
 四方のけしきの、うるはし
 すなご清らに、みはてし
 山はみとりに、あみはてし
 薄霧の霞し

(二) ながるゝ水は、とまら
 すぎゆく年は、また来
 人々うつくしき、この天然の四つ時
 ゆげや人々うつくしき、この天然の海や山

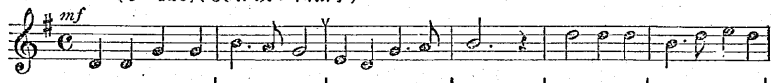
(三) ながるゝ水は、とまら
 すぎゆく年は、また来
 人々うつくしき、この天然の四つ時
 ゆげや人々うつくしき、この天然の海や山

此歌は春の花秋の紅葉夏の月冬の雪山の緑水の流れを始め自然の景色一として我等を喜ばせぬものはないといふ意

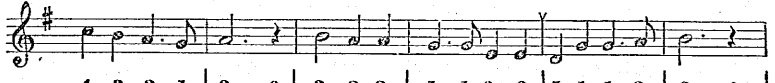
またと来じ再びあらう

美しき天然

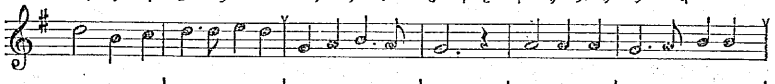
スラット (♩=126) (と調四分ノ四拍子)



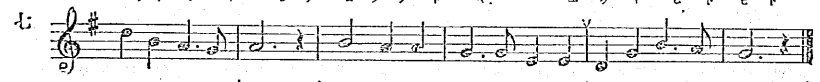
5 5 1 1 | 3. 2 1- | 6 5 1. 2 | 3- 0 | 5- 5 5 | 3. 5 6 5 |
 ギ ン ニ サ ヲ ラ ル ツ ツ ル ク ミ シ ツ キ キ ア ア メ ツ チ ノ
 ナ ナ ニ ガ ラ ル ツ ツ ル ク ミ シ ツ キ キ ア ア メ ツ チ ノ



4 3 2 1 | 2- 0 | 3- 2 2 | 1. 1 6 6 | 5 1 1. 2 | 3- 0 |
 オウ ム シ ロ ヤ ハ ア ハ ナ サ ク カ ナ メ サ ク ク ナ ラ
 ヲウ ム シ ロ ヤ ハ ア ハ ナ サ ク カ ナ メ サ ク ク ナ ラ



5- 3 4 | 5. 5 6 5 | 1 2 3. 2 | 1- 0 | 2- 2 2 | 1. 2 3 3 |
 アキ ハ ア オ ロ モ ガ シ ナ ツ ハ ス ナ ク ク
 アキ ハ ア オ ロ モ ガ シ ナ ツ ハ ス ナ ク ク



5 3 2 1 | 2- 0 | 3- 2 2 | 1. 1 6 6 | 5 1 3. 2 | 1- 0 ||
 ツ キ テ ゴ ヲ キ フ ユ ハ ナ マン ナ マン チ ヲ
 ツ キ テ ゴ ヲ キ フ ユ ハ ナ マン ナ マン チ ヲ

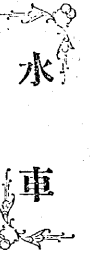
水車

清き流れの山に、
 まはれるひまき、
 千の年、
 煙吹のまよはなれし、
 落つる夕日に、
 とこよのやみを、
 車ひとりが、
 おきなは家に
 おつる夕日にいそがれて、
 おきなは家に、
 とこよのやみを、
 守らんおきなは家に
 只めぐるなり
 只まもるなり
 只この仙人か
 すみなれて
 たぎれる水に、
 只こたふなり
 只この仙人か

一、この歌は谷川にかゝる水車のあたり静かに廻るさまをのべ三の歌は夜
 間極めて静かなるうちに廻るさまをのべたのである、水
 たぎれる水湯のわく如くにわきかへりて流る、水
 たゝこたふなり、水車のひまきかへりて流る、水
 おつる夕日にいそがれて、日かくれたからいそいでとい
 おきなは家に、家にの下の下には何もしらぬとい
 とこよのやみを、こゝの意味は、こゝの意味は、こゝの意味は、
 意注奏演
 ○此曲は八分の六拍子なり、即ち第一拍と第四拍とは強弱部にして、他
 は弱部なり、而して常曲は稍急なる六拍子なれば、各小節を六拍
 に數ふる事なく、下拍に初めの八分音符三個を充て、上拍に揚げたる八分
 音符三個を充て、二拍子の如く數ふべし、依に曲首に揚げたる八分
 音符三個を充て、附點四分音符（即ち八分音符三個相當）を單位（二拍）とし
 て數ふべきを示したり、常曲に於ては必ず其價值だけ延長するよ、注意すべし
 ○本位記號仰初めたる二個音符は必ず其價值だけ延長するよ、注意すべし

ユラユラト (♩ = 104) (へ調 八分ノ六拍子)

1 キチチ
 1 ヨト
 2 キセル
 3 ナレ
 4 ガシ
 5 ノ
 6 ノ
 5 ノ
 3 ナ
 1 ナ
 2 ナ
 3 ナ
 4 ナ
 5 ナ
 6 ナ
 7 ナ
 8 ナ
 9 ナ
 10 ナ
 11 ナ
 12 ナ
 13 ナ
 14 ナ
 15 ナ
 16 ナ
 17 ナ
 18 ナ
 19 ナ
 20 ナ
 21 ナ
 22 ナ
 23 ナ
 24 ナ
 25 ナ
 26 ナ
 27 ナ
 28 ナ
 29 ナ
 30 ナ
 31 ナ
 32 ナ
 33 ナ
 34 ナ
 35 ナ
 36 ナ
 37 ナ
 38 ナ
 39 ナ
 40 ナ
 41 ナ
 42 ナ
 43 ナ
 44 ナ
 45 ナ
 46 ナ
 47 ナ
 48 ナ
 49 ナ
 50 ナ
 51 ナ
 52 ナ
 53 ナ
 54 ナ
 55 ナ
 56 ナ
 57 ナ
 58 ナ
 59 ナ
 60 ナ
 61 ナ
 62 ナ
 63 ナ
 64 ナ
 65 ナ
 66 ナ
 67 ナ
 68 ナ
 69 ナ
 70 ナ
 71 ナ
 72 ナ
 73 ナ
 74 ナ
 75 ナ
 76 ナ
 77 ナ
 78 ナ
 79 ナ
 80 ナ
 81 ナ
 82 ナ
 83 ナ
 84 ナ
 85 ナ
 86 ナ
 87 ナ
 88 ナ
 89 ナ
 90 ナ
 91 ナ
 92 ナ
 93 ナ
 94 ナ
 95 ナ
 96 ナ
 97 ナ
 98 ナ
 99 ナ
 100 ナ



日本軍艦

(一) 大なること、山やまの如ごとき、鋼くわ鉄てつの、
 軍いくさ艦せん、あまつさへ、忠ちゆう勇ゆう無む二にの、
 兵へい士し載のせたる、艦せん、世よ界かいにまたと、
 あるべしや、
 (二) 動うごかざること、城しろの如ごとき、鋼くわ鉄てつの、
 軍いくさ艦せん、あまつさへ、天あま神かみ地ち祇せきの、
 艦せん軸じくを護まもれる、艦せん、世よ界かいにまたと、
 あるべしや、
 (三) そもむかしより、響ひびき高たかき、わが國くにの、
 人ひと々々よ、勇ゆう名なを、祖む先せんに受うけし、
 たふとく穢けれぬ、を、世よ界かいに舉あげて、
 あるべしや、

結むすぶが大きい上に、乗のり手が忠ちゆう勇ゆう無む双じゆうであり、その上うへ神かみが護まもる。こんな
 界かいには、世界せかいに又またとならないのだから、我われ々々は、ますます、勇ゆうましいい名なを世
 あまつさへ、そのうへ、
 つは、もの、武士ぶし即すなはち、軍いくさ人ひと、
 あるべしや、あるものか、ありはしない。
 地ち祇せき地ちをまもる神かみ、
 舉あげであるべしや、あけないで、よからうか、よくない。

意注奏演
 ○第三段の第二小節と第四小節とに於ける第三音符と第四音符との間を
 呼吸の爲めに後くる、事なき様注意を要す
 ○第四段第一小節の附點二分音符を必ず其價值だけ延長する様注意すべ
 し

○スラー(サンドー)に注意せよ
 ○最強記號(フ)始めて用ゐらる
 ○アマツサヘのマツハ促聲に唱ふべし

日本軍艦

Moderato Maestoso. 壯大=(♩=92)(と調四分ノ四拍子)

1-3 2 | 1 7 6 5 5 | 1. 1 2 3 | 2-1 0 | 5-6 4 |
 コラン ホシモ イカム ナゼカ 一ルシ ココト トトリ ヤシキ テテク
 3-2 0 | 1 6 6. 5 5 | 5- 0 | 5-3 4 | 3 2 1 0 |
 ツノノ イヒク サセ ヲナホ 木ね アあ いま 一ツツヤ サマイ 一ハザ
 1- 1 3 | 3 5 5 5 | 6 5 1 5 | 6 5 1 1 | 6- 6. 5 |
 サハシ 一ニニ アチツ ノのッ ハハフ ノハツ ノハツ 6. 5 1 1 6. 5 |
 5- 5 | 5- 3 1 | 5- 5 6 | 4 2 2 1 | 1- 0 |
 木ねサ セセセ カカカ イイニ ニニ アア タタ トト アア ルル アア 一シシ ヤヤ

螢

露の白玉(一)
 葉末はなはなれて見れば、
 螢はなはなれて見れば、
 天つみそらの、
 見えみだれてとぶか、
 螢の火こそ、
 まねくうちはの、
 思はぬかたに、
 去ばしかくれて、
 ほたるは星の、
 玉篠竹のさ、
 葉末はなのさき、
 見えみ見えみ見えたり見え
 いつしかもいつのまにやらま

夏あの星ほしは、
 東あづまの星ほしは、
 流ながる玉たまは、
 三さんつ飛とぶ、
 五ごつ飛とぶ、
 夏あの星ほしは、
 東あづまの星ほしは、
 流ながる玉たまは、
 三さんつ飛とぶ、
 五ごつ飛とぶ、

乗のりさきに止とまりて居ゐるのは露つゆ玉たまの如ごとくそら飛とぶものは流ながる星ほしの如ごとく、
 中なかには星ほしのなかまりをしてしまうたようで實におもしらい
 といふこと、

玉たま篠しの竹たけのさき、
 葉末はなのさき、
 見えみ見えみ見えたり見え
 いつしかもいつのまにやらま

演奏演奏 ○豫習曲として「水車」を復習すべし
 ○當曲の速度は「水車」の如く急速ならず、各小節は六拍に數ふべし
 ○發想に注意し動搖するが如き處を以て「ユラリ」と唱ふべし

演奏演奏 ○當曲の速度は「水車」の如く急速ならず、各小節は六拍に數ふべし
 ○發想に注意し動搖するが如き處を以て「ユラリ」と唱ふべし

清明=(♩=126)(へ調八分ノ六拍子)

mp

5 ツア
3 ユ
1 ノ
7 シ
1 ラ
6 タ
5 マ
5 カ
3 カ
1 ル
7 カ
2. 2

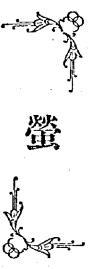
5 ユ
3 ユ
1 テ
7 ミ
1 レ
6 パ
5 カ
5 ナ
2 ユ
4 ユ
3 サ
2 キ
1. 1

mf

3 4 5 3 3 4 5 6 5 3 4 5 3 3 4 5. 5
ハハシ ズエガ エカシ ナエク レテレ テカテ シカシ カシシ トガカ アシモ

十三

5 ホ
3 タ
2 ル
1 ハ
7 フ
1 タ
6 ミ
5 ソ
5 ミ
1 ツ
3 ヤ
2 イ
1. 1



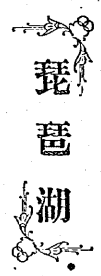
琵琶湖

歌へや歌へ、世に名も高き、
 三井近江の海、鐘のねくれば、
 瀬田の夕日は、影もな

比良の暮雪の、あはれはあれど、
 矢走の石山、の、秋はあつた、
 雁の歸帆、に、おちぬらん、
 粟津の晴嵐、に、げにおもしろく、
 唐崎のさむき、浮る雨の夜、
 聞くさへ心にかに、旅を

三井寺にてつく入相の鐘に口がくれば、瀬田の夕照といふけれど、
 も影もなく真暗になつた。比良の峰の暮れ方の雪の景色も佳い、
 ことは佳いがなほ石山の秋の月の方がまさつて居ると言はうか、
 矢走の歸帆といふがその帆も見えやんで雁は堅田におりたであ、
 らうか。粟津の晴嵐といふがその様實に開いたばかりでも心が、
 うき／＼するのをまして旅などして目に見る人はどれほど心も、
 しろからう。

あはれ此語いろ／＼の情をあらはすに用う。
 注奏演 ○優美に歌ふべし決して叫聲を用うべからず。
 ○第三段參照はアイチャ、ノイテなり(第一學年に出でたる「朝起」の
 意注參照)第三段末節は稍 *Ritardando* の意あるべし。



琵琶湖

流暢=(♩=88)(は四分ノ四拍子)

mf

1 1 3 5 5 | 6 1 5 - | 6 6 1 7 6 | 5 3 1 2 -

サハア ちハ へのツ ヤハノ ヲツイ へのラン 田ニハ ナレキ モハニ ちカレハ キドク

6 5 3 1 | 3 2 2 1 5 - | 5 3 1 2 2 | 1 - 0

アホラ フホラ ノシキ ワヤサ 一ミマ 一ノキ ヤアア ツキメ 一ノケツヨ イキ

f

1 1 2 1 1 6 | 5 6 5 - | 6 6 1 7 6 | 5 3 1 5 -

ミヤキ 手ばク ニセサ ハ 一キキ コ ヲケハ スノロ カケツ ヲ ノヘル 一ノレノ クサモ テテテ

mf

6 6 6 5 | 6 1 5 - | 5 3 1 2 2 | 1 - 0

セカミ 女リル ノヤヒ エカト フタイ ヒタガ ハニヒ カオキ カチビ 一モウチ シンテ

故郷の小川

舟ふねをりて、流ながし
小魚こいしすくひて、遊あそびし
あ、彼のかの小川こがわ、彼かのの遊あそびし
きよきその音ね、耳みみにあり

雲くものあなたに、故郷ふるさとを、
おきて年としふる、旅たびのやど、
あ、あの小川こがわ、あながれゆく、
夜よことの夢ゆめに、

故郷ふるさとをはなれて旅たびのすまひをしてをれば故郷ふるさとの事が思おもひ出でされ
て小供こどもの時に遊あそんだ小川こがわなどが夢ゆめにも見みえたり流ながれる音ねなどは
耳みみにも聞きえるよ一いつであるといふこと

征舟せいふね形かたちに折りたるもの、
雲くものあなたにといふことで遙とほに遠とほいこと、
旅たびのやど、の事を思おもひ出でされるなどいふ意味いみを含こめてある。

○充分發想充分発想に注意注意し感情感情を以て唱うたふべし
○第三段第三段なる *Accelerando* は *Moderando* の反對反対にして迫おそるが如ごとく漸しだ々しだ速すみ
度どを早はやめて唱うたふべきを示しす樂語楽語なり、即ち當曲当曲第三段第三段は其拍子其拍子漸々追
り其末節其末節に及びてまた稍緩み第四段第四段は更さらに大いに緩ゆるみて唱うたふべきも
のとす

○充分發想充分発想に注意注意し感情感情を以て唱うたふべし
○第三段第三段なる *Accelerando* は *Moderando* の反對反対にして迫おそるが如ごとく漸しだ々しだ速すみ
度どを早はやめて唱うたふべきを示しす樂語楽語なり、即ち當曲当曲第三段第三段は其拍子其拍子漸々追
り其末節其末節に及びてまた稍緩み第四段第四段は更さらに大いに緩ゆるみて唱うたふべきも
のとす

故郷の小川

Andante Sentimento. 道想ノ成ヲ以テ (♩=84)(へ調八分ノ六拍子)

三

5 1 1 1 7 | 1 2 3 3 | 4 3 3 2 1 | 2. 2 |
5 3 3 3 2 1 | 1 6 6 5 | 1 1 7 1 2 | 1. 1 |
5 1 1 2 2 | 3 3 3 3 | 4 4 4 4 | 5. 5 |
5 5 5 5 6 | 6 4 3 6 | 5 1 3 2 | 1. 1 ||
5 5 5 5 6 | 6 4 3 6 | 5 1 3 2 | 1. 1 ||

三
サク サ プ ネ ナ ガ シ シ モ
も の あ な た に ふ る さ と
お き て と し ヒ ー ア た ソ ビ の や も と
あ あ の を が は あ の を が は

三
キ ヨ キ ソ ノ オ ト ミ ナ が ニ ア リ
よ こ と の む め に な が ね ゅ く

(一)

黄金の波を、打ちよせてく、
ゆたかにみゆる、小田の秋
案山子の弓も、篋笠も、
もちひぬ年の、のとけさよ。

(二)

松の梢に、ほのみえてく、
かげさす空の、夕月夜
うれしや明日は、鎌いれて、
我田の稲も、刈り取らん。

(三)

里にはひゞく、歌の聲く、
民には満つる、富の色
いはへや煙にぎはひて、
さかゆる秋の、めでたさを。

(四)

鎮守の森の、あなたにはく、
祭のはやし、聞ゆなり、
をとれや舞へや、もろとも、に、
老も若きも、幼子も。

米穀ゆたかにみゆりて黄金色の波が立つよである。農夫のよろこびいかばかりであらうか。明日は刈り取らうと言うて喜ぶ者もあらう。既に刈りあげて小隰する者もあらう。鎮守の祭などもかゝる年には一きは賑かであるといふ意をだふこと。

案山子 笹などの穂をつみに來るのをいましめるた
ほのみえてと見えて、
煙にぎはひてかまどの煙が盛
鎮守 づめ守る神社

○極めて快活に急拍子に歌ふべし

演奏意注 ○當曲に於て三連音符(♪)始めて現はる、該符は一拍間に三個の音符を平等に歌ふべきものにして初習者には稍困難なれば充分の注意を要するなるべし

楽シゲ=(♩=138)(は調四分ノ四拍子)



1. 3 5. 6 5. 3 | 1. 3 5. 6 5- | 1. 1 7. 6 5. 6 5. 3 |

一 コガネ一ノ一 ナ一ミ一ヲ ウ一チ一ヨ一セテ
 二 ま一つ一のこ す一ゑ一に ほ一の一み一えて
 三 サトニ一ハ一 ヒ一ビ一ク ウ一タ一ノ一コエ
 四 ちんじゆ一の一 も一り一の あ一な一た一には



年



(二十ページへつゞく)



1. 3 5. 6 5- | 1. 7 1. 7 6. 7 6. 6 | 5. 3 1 2 3 2- |

ウチヨセテ ユタカニミ一ノル ヲダノ一アキ
 ほのみえて かげさすそ一らの ヲふづ一きよ
 ウタノコエ タタミハミ一ツル トミノ一イナ
 あなたに は まつ りの は一やし きこゆ一なり

二十一



1. 2 3. 4 5. 6 5. 5 | 6. 6 5. 5 i- |

カガシノユミモ一 ミノカサモ
 うれしやあすは一 ニかまいいれ
 イハへヤケムリ一 ニギハヒ
 おどれやまへや一 もろとにも



年



(二十一ページのリキ)



1. 1 1. 1 2. 1 7. 6 | 5. 5 5 6 7 i- ||

モテヒヌト一 シノカメ
 わがたのい一 わもノメ
 サカユルア一 キノメ
 おいもわか一 きもを

二十

秋景

(一)

月さえわたり、花さく野邊

虫のこゑこゑ、あはれふかし

ふりいだすすず、かきならす琴

げにたくひなき、あきの風情

(二)

おりなすにしき、みねのもみぢ

おく霜ごとに、色をそへぬ

みそらは高く、氣は晴れたり

げにならびなき、秋のけしき

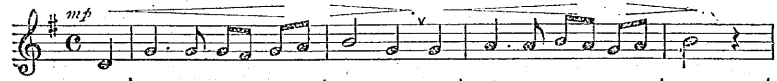
月明かに、花咲く秋の野邊に鳴く虫の聲など、實におもしろい。鈴虫が鈴ふるよゝに鳴くと誰か家でか琴を弾するのが聞える。天高く空気が清くして錦かしらんと思はれる紅葉は霜ふるたびに色がよくなる。實に佳い秋景だ。 (略解)

風情 おもむきおも
しろみけしき

天高く 秋だとして別に天が高くなるわけでは
なけれど空気が清きためにさう思ふ。

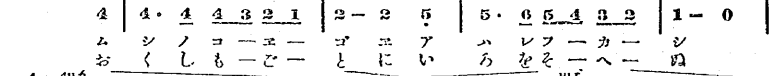
演奏注意 ○發想に注意し落ち着きて歌ふべし
○第三段末節の二音符は極めて滑かに且つ稍緩めて歌ふべし

成ヲ以テ(♩=80)(と調四分ノ四拍子)



5 | 1. 1 1 7 1 2 | 3- 1 1 | 2. 2 2 2 1 2 | 3- 0 |

ツキ サ エ ソー タ リ ハ ナ サ ク ノー ベ
お り な す に し き み ね の も み ぢ



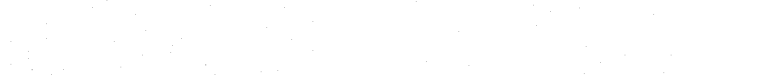
4 | 4. 4 4 3 2 1 | 2- 2 5 | 5. 5 4 3 2 | 1- 0 |

ム シ ノ コー エー コー ニ ア ハ レ フー カー シ
お く し も こ と に い ろ を そ へ ぬ



5 | 5. 4 3 1 | 2- 2 1 | 5. 5 4 3 1 | 5- 5 |

フ リ イ グ ス ス ズ カ キ ナ ラ ス コ ト
み そ ら は た か く き は は れ た り



5 | 1. 1 1 7 1 2 | 3- 1 1 | 2. 2 2 2 1 2 | 1- 0 |

グ ニ タ グー ヒー ナ キ ア キ ノ フー ゼー イ
げ に な ら び な き あ の け し き



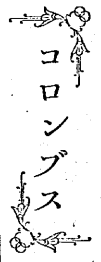
ころんぶす

大西の洋のあなたは、
 亞米利加州の話を、
 舟乗りへだす、
 眼にさはる、
 流るる草の葉を見れば、
 見とめし島は、
 喜ぶ聲は、
 雲井まで

(一) かなたに世に
 (二) 見知らぬ世に
 (三) 進むめど上りも
 波のうたがたり

一の歌はころんぶすがえらいといふこと、二の歌は航海中の事三の歌はいよく発見した事をよんだのである。
 かなたにはあちらには、
 陸ありとしも陸があるといふこともまづ、
 かくれなし誰知らぬ者はない。
 いふほどに言うて居るまに。

演奏注意
 ○第四段は、歌詞第三章の場合には特に稍強く歌ふべし
 ○拍音初めて現はる注意を要す



コロンブス

流暢=(♩=104)(は調四分ノ四拍子)

mf

5 | 5 . 6 5 4 3 2 | 3 . 4 3 3 4 | 5 . 6 5 4 3 2 | 3 - - |

ミフナ イレセのイルロいだすノカナナクキのミニラヘハ

5 | 5 . 6 5 4 3 2 | 1 . 2 3 4 3 | 2 . 6 6 5 5 4 | 5 - - |

リレリヘハアにシカトヘシトシイラマヨホニニニ

3 5 | 1 . 7 7 6 6 5 | 6 . 7 1 7 6 | 5 . 6 5 4 3 2 | 3 - - |

アメニメニリカシマハツケマシニタニル

3 5 | 1 . 2 1 7 6 5 | 1 . 2 3 3 2 | 1 . 2 1 7 6 7 | 1 - - |

ヒヒトヤノヒナクニロニカサクニレシナニソ

自然

(一)

こゝろとゞめて、
 天地自然は、
 蟻の建てたる、
 住ひのさまは、
 小瓶造りし、
 たくみはやがて、
 口にあやどる、
 これ織物の、
 擔に組みたる、
 蜘蛛のいと

(二)

泥造りし、
 蜂の、
 陶器ぞ、
 蚕のまゆは、
 織物の、
 繻の形よ、

(三)

これ編物に、
 杭に文字彫る、
 小壁に繪がく、
 花にとび舞ふ、
 千種に歌ふ、
 秋のむし、
 美術のわざは、
 そなはれり。

(四)

花にとび舞ふ、
 千種に歌ふ、
 秋のむし、
 美術のわざは、
 そなはれり。

心をとゞめて見れば世界の事々物々は皆我等に種々の事を教へてくれるといふことを多くの例について説いたのである。

蟻のたてたる高殿蟻づかのことをおも
 小瓶造りし云々同上、蜂が土をもちて瓶の形にした小さなもの
 杭に文字彫る云々虫が木に穴ほるものをお

温和=(♩=104)(變は調四分ノ四拍子)

mf

五. 4 3 2 | 1 0 5- | 1. 2 3 5 4 3 | 2- 0 |

一. コ コ ロ ト ド メ テ ヨ フ ミ ー レ ー バ
二. こ が め つ く り し ど ろ ば ー ち ー の
三. ノ キ ニ ク ミ タ ル ク モ ノ ー イ ー ト
四. は な に と び ま ふ て ふ て ー ふ ー や

自

然

(二十八ページへつづく)

五. 4 3 2 | 1 0 5- | 1. 2 3 4 2 | 1- 0 |

テ ン チ シ ゼ ン ハ ワ ガ シ ー ナ リ
た く み は や が て や き も ー の ぞ
コ レ ア ミ モ ノ ニ コ ト ナ ー ラ ズ
ち ぐ さ に う た ふ あ き の ー む し

f

五. 5 1 5 | 6 6 5- | 6. 5 4 3 2 1 | 5- 0 |

ア リ ノ タ テ タ ル タ カ ド ー ノ ー モ
く ち に あ や ど る こ の ま ー 唄 ー は
ク ヒ ニ モ ジ ホ ル キ ク ヒ ー ム ー シ
か か る い や し き も の に ー さ ー へ

自

然

(二十九ページにつき)

五. 5 1 5 | 6 7 1- | 3. 4 5 5 | 1- 0 ||

ス マ ヒ ノ サ マ ハ ソ ナ ハ レ リ
こ れ お り も の の ひ な が た よ
コ カ ベ ニ ヌ ガ ク ナ メ ク デ リ
び じ っ の わ ざ は そ な は れ り

日本刀

(一) われ魂あり、誰かには知らず、
 磨きにみかける、大に魂輝く、
 神州の児の精、露結ぶ、
 光は氷の妻、五州を照したる、
 正義の光は、無禮幾、
 天下の賊は、無禮幾、
 切味の示さん、只、
 日本刀、

日本刀というものは世界に名だかい寶刀でその切れあちのよ
 を居る人が正善のためには邪悪を切る時でなくしては功をなさぬこと
 をよんだのである。

誰かは知る誰か知らず

神州男兒の精氣結ぶ日本男兒の精神や氣象がこの
 光は稻妻五州を照し電光の如くで全世界を照したる
 正義云々正義とは公平に私のも無禮無禮なものには忍びに
 亡びるといふこと

演奏注意 ○當曲は四分の三拍子なり即ち各小節の第一拍は強聲部にして他の二拍
 ○各段の第二小節なる第一音符は往々其價值以上に延び易
 ○「ニホント」の音に餘り力を入れざる様注意すべし又「キツサキ」
 のキツは促聲に取ふべし

日本刀

勇マシク (♩=116) (と調四分ノ三拍子)

和氣清磨

(一)

おもきみことを、
 身に負持ちて、
 うすきこほりを、
 ふむおもひにも、
 たわまぬころ、
 を、しや清し。

(二)

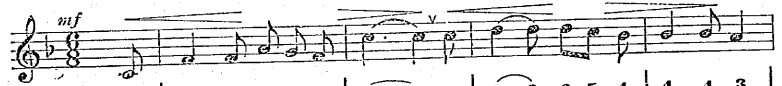
君のみむねに、
 などそむくべき、
 神のみつげを、
 など矯むべきと、
 まげざるころ、
 さよしやを、し。

これは清磨公が宇佐八幡の神の御つげをうけて無道の僧道鏡を
 しりぞけ天子の御位を清め奉った大勳功を稱賛したのである。
 おもきみこと云々天皇陛下の重大なみこと
 うすき氷云々詩經に「戦々兢兢如臨深淵如履薄氷」とあり。
 君のみむねお天皇陛下の
 ほしめし。

演奏注意 ○前出「登」の曲を豫習曲として復習すべし
 ○第二段の末節は稍速度を緩め第三段は再び元の速度にかへりて歌ふべし

和氣清磨

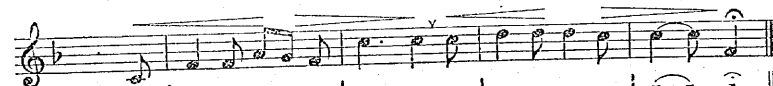
温和=(♩=116)(へ間八分ノ六拍子)



五 | 1 1 3 2 1 | 5. 5 5 | 6 6 6 5 4 | 4 4 3 |
 オ モ キ ミ コ ト ラ ミ ニ オ ヒ モ テ
 二 き み の み む ね に な ど そ む く べ き

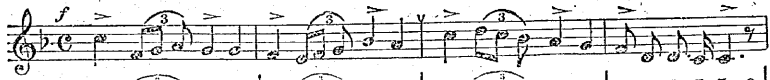


1 | 1 5 5 5 | 3 2 1 1 | 2 2 3 6 | 5 1 5 |
 ヲ ス キ コ ホ リ フ ム オ モ ヒ ニ
 一 か み の み つ げ を な ど た じ べ き と

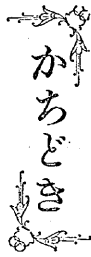


五 | 1 1 3 2 1 | 5. 5 5 | 6 6 6 5 | 5 5 1 |
 タ マ ス コ コ ロ フ ラ シ ヤ キ ヨ シ
 三 ま げ ざ る こ こ ろ き よ し や を を 一

勇マシタ (♩=116) (ハ調四分ノ四拍子)



5 1 2 3 2 2 | 1 7 1 2 4 3 | 5 6 5 4 3 2 | 1 6 6 5 5 0 |
 一. イ サ マ シ タ ト キ ノ コ エ ワ ガ ヘ イ ハ カ テ タ ル ツ
 二. う み や ま も く づ れ よ と ふ き に つ る ら っ ば の ね



5 5 9 7 1 1 | 2 2 3 1 3 2 | 5 6 5 4 5 3 | 3 2 1 2 1 7 1 0 ||
 ッ ケ ヤ イ ザ テ キ エ イ ラ タ テ ヨ イ ザ ワ ガ ハ タ フ
 あ れ み や や に げ て づ く て き へ い の か よ わ さ を

かよわさ 只よわいといふこと

演奏注意 ○豫習曲として前出「豊年」の曲を(特に其三連音符を練習すべし)
 ○各強弱部の(>)に注意すべし
 ○各三連音符の拍子を極めて正確に歌ふべく、なほ其拍子の奇しく追ふ
 の様注意を要す

敵^て あ ふ 海^う 立^た 突^つ わ 勇^{ゆう}
 兵^{へい} 逃^に 見^み 喇^ら た 崩^{くづ} 山^{やま} (二) 我^{われ} 敵^て 勝^{かち} が 闘^ま
 の、 げ け よ 吹^ふ つ れ も 旗^{はた} 營^{えい} ち 兵^{へい} の し
 の、 け て や の の と を を を を だ ら ち 兵^{へい} の し
 の、 づ く の 音^ね と を を を を ぞ ら ち 兵^{へい} の し
 の、 づ く の 音^ね と を を を を ぞ ら ち 兵^{へい} の し

かちどき

鏡

(一)

むすぶ氷か、
てる月影か、

玉の光も、
なに及ぶべき、

清くすゞしき、
かゞみの姿

(二)

黒きしろきを、
つゆ偽はらず、

ありのまゝにぞ、
かげうつしける、

直くたゞしき、
かゞみのこゝろ。

かゞみのこゝろ鏡の本性といふほどの意

演奏注意
○豫習曲には二年なる「親の恵み」然るべし
○第一段落は上行八度音程を滑かに歌ふべきこと前出「秋景」に於ける下行八度音程の如し
○第二段落は稍速度を緩め第三段落は再び元の速度にかへりて歌ふべきこと前出「和氣清塵」に於けるが如し

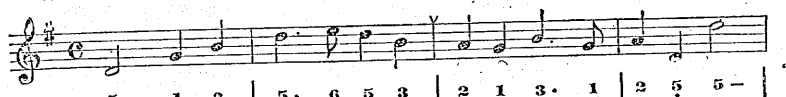


鏡

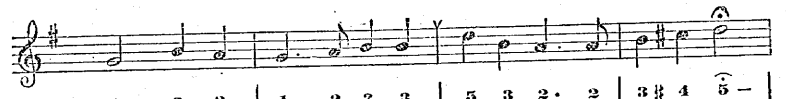


(女子用)

柔和 = (♩=100) (と四拍子)



一 5- 1 3 | 5. 6 5 3 | 2 1 3. 1 | 2 5 5- |
二 ム ス プ コ ホ リ カ テ ル ツ キ カ グ カ
く ろ き し ろ き を つ ゆ い つ は ら す



1- 3 2 | 1. 2 3 3 | 5 3 2. 2 | 3# 4 5- |
タ マ ノ ヒ カ リ モ ナ ニ オ ヨ プ ベ キ
あ り の ま ま に ゑ か げ う つ し け る



5- 1 3 | 5. 6 5 3 | 1 2 3. 2 | 5 5 1- ||
キ ヨ ク ス ズ シ キ カ ガ ミ ノ ス ガ タ
な ほ く た だ し き か が み の こ こ ろ

松の操

岸の姫松よわくとも、
かはらぬいろは、千代に見ん

嵐はげしく、吹かばふけ、
あだなる花に、ならはんや。

みねの若松(二) ひくくとも、
しらべはたかし、塵の外

み雪はげしく、ふらばふれ、
ちるもみちばに、ならはんや。

この歌の意は花や紅葉のよに美しいばかりが女子のほめどころではない。すなほにして正しく清く善い心だてや行ひがいつまでもたゆまずかはらぬといふこと、松の風や霜や雪にあうてますく榮えるよいでなくてはならぬといふことである。
み雪 たい雪と
いふこと。

演奏注意 ○第三段の首めに於ける八度音程は圓滑に歌ふべし、なほ同段初めの二小節はや、迫りて次の小節は稍緩めて歌ふべし
○凡て充分發想に注意するを要す

松の操

(女子用)

優美 = (♩ = 114) (と調八分ノ六拍子)

三十九

mp
三 五 | 三 二 一 七 一 | 二 . 五 五 | 一 一 二 二 | 三 . 三 |
キミ | シノヒメ | ママツヨ | ソノクト | モー

mf
三 五 | 三 二 一 七 六 | 五 . 一 一 | 二 二 三 二 | 一 . 一 |
カハラ | ハラスイ | ロハチ | ヨニ | ソ

mf
三 五 | 五 四 三 二 三 | 四 . 六 五 | 五 六 五 # 四 | 五 . 五 |
ア | ラシハ | シクフ | カ | バ | フ | ケ |

a tempo.
mf
三 五 | 三 二 一 七 一 | 二 . 五 五 | 二 二 三 三 | 一 . 一 ||
ア | ダ | ナ | ル | ハ | ナ | ナ | ラ | ハ | ナ | ヤ |

愛ラシク (♩=100) (變り調四分ノ四拍子)

3 3 1 7 | 6 7 3 - | 3 3 1 6 | 7 - 0
ソミ ヨレ ニハル スクネ ナドズ トリミ ハビレ ヲハル ノホ

3 3 1 7 | 6 7 1 1 | 7 7 1 7 | 6 - 0
オモ 一ホー キーセボノ キマイ マツヘ ヒニシ ココナ ノボル ニル ヲナ

3 3 4 3 | 6 7 6 7 | 1 - | 6 7 6 7 | 1 2 | 3 - 0
キナガ ヨクク ノナ ヲキナス 一セクミ 一テナテ オオカ ヒヤハ

3 - 4 3 | 2 1 7 7 | 3 6 1 7 | 6 - 0
ハビ ヲコテ ノハヤ ヲハヤ テナガ ヲンクミ ニニテ スツオ ハレト ヲウナ

人形 (女子用)

人形

意注奏演 ○無邪氣に愛らしく歌ふべし
○第四段第二小節の第一音(2)は其高度下り易し注意を要す

粗末にすなと、母上、
おほせ給ひし、此人の形
着物をきせて、帯しめて、
箱の御殿に、すはらせん
着物はみどり、帯は赤
襖様は松に、こぼれ梅
泣くなよ泣くな、お休みの、
日には花見に、つれ行かん、
あばれるねずみ、じゃれる猫
人形の家を、やぶるなよ、
學校すみて、歸るまで、
待てや我身を、おとなしく、

變ラシク(♩=69)(櫻い調四分ノ四拍子)

六六 7- | 2 3 4 2 3 - | 1 1 3 3 | 7 1 6 7 - | 4 4 0 0
ナノル ヲル ヲル ヲル ヲル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル

1 3 6 7 - | 2 2 2 3 | 4 4 4 3 | 0 7 1 7 1 6 | 7 - 0 |
ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル

2 2 4 4 | 3 4 6 7 - | 4 4 0 0 | 1 3 6 - 7 - |
ヒヤク ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル

4 4 4 3 | 4 0 4 3 2 | 2 3 4 3 4 2 | 3 - 0 |
ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル ナノル

子守唄
女子用

子守唄

ちごよ (一)
ねむれよちごよ
蝶々のとぶのを、見
ひら／＼ひら
櫻のちるのを、見
てねむる

蝶々 (二)
よく飛ぶ蝶々、
の菜種に、
来て休め、
そばに来て

寝てゐる子供の、
その

車 (三)
かゝる寝顔を、見
て廻るちごよ、
よくなるちごよ、
くる／＼くる、
もろとも

櫻や蝶々と、
もろとも

これは子供の無邪気なにあはせて詠んだのである。此歌聞
ては稚子の夢に入るであらうといふ意。
蝶も花も風車も

演奏注意 ○發想に注意し速度速くユツタリと且つ可憐に、寧ろ微聲にて歌ふを要す
○凡て八分音符を急がず滑かに歌ふべし
○最後の二小節は漸々速度を緩め微聲に消ゆるが如く歌ひ納むべし
○豫習曲としては前學年なる「月」の曲可なり

k136.7

有 所 權 作 著

明明明明明明
 治治治治治治
 十八十五十五
 年年年年年年
 四四十一十五
 月月月月月月
 六一五五一五
 日日日日日日
 五五訂訂訂訂
 版改三正正
 發印發版版
 行刷行刷行刷

編者

東京市京橋區竹川町十三番地
共益商社樂器店

定價金參拾錢

代表發行者

東京市京橋區竹川町十三番地
白井直

印刷者

東京市京橋區築地三丁目十五番地
野村宗十郎

發行所

東京市京橋區竹川町十三番地
共益商社樂器店

印刷所

東京市京橋區築地二丁目十七番地
東京地活版社

